

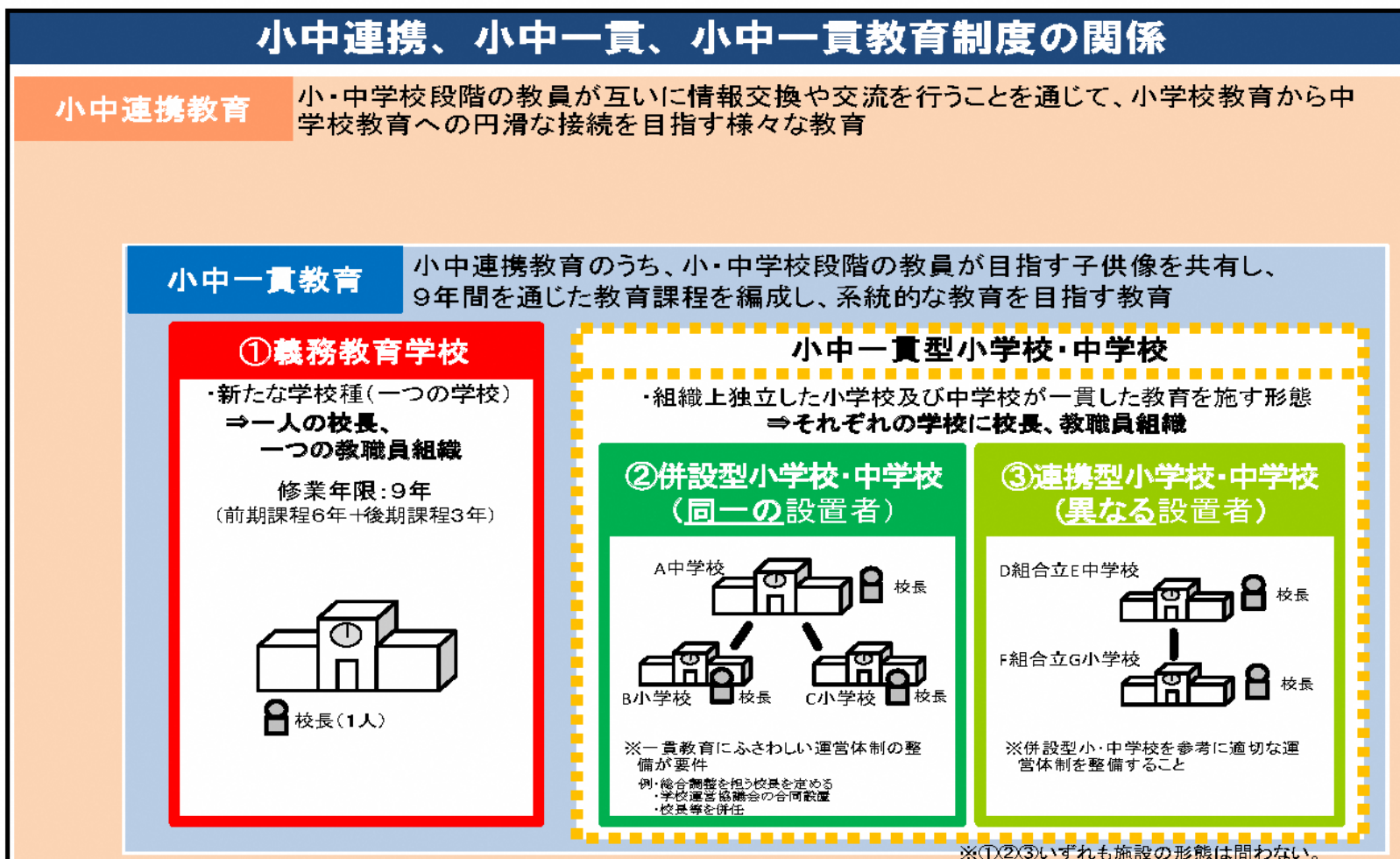
学校運営の事例紹介

- **小中一貫教育** …… **1**
- **分校** …… **13**
- **一部事務組合** …… **16**

小中一貫教育 事例紹介

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度概要

義務教育学校 (P.3)	一人の校長の下で一つの教職員集団が一貫した教育課程を編成・実施する9年制の学校で教育を行う		
小中一貫型小・中学校	組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を施す形態	併設型小・中学校 (P.9)	同一設置者によるもの
		連携型小・中学	小学校と中学校で設置者が異なるもの



義務教育学校① 瀬戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）

- 中心市街地の少子化問題を解決するため、五つの小学校と二つの中学校を一つにする全国でも珍しい大規模な統合で、2020年4月に開校
- 人口約13万人の瀬戸市には、統合前は小学校は20校、中学校は8校あった。廃校舎のうち一つは私立小学校に。残りは福祉や防災の拠点にするため、地域で活用法の検討が進む



- 学校規模（令和3年度）
 - 小学校：1学年3～4学級
計689人
 - 中学校：1学年2～4学級
計245人



義務教育学校① 瀬戸市立にじの丘学園（愛知県瀬戸市）



さまざまな児童生徒が交流する階段



登下校に路線バスを使う



おんぶやだっこで触れ合っている児童生徒



理科ボランティア（実験をサポート）

義務教育学校② 成田市立下総みどり学園（千葉県成田市）

- 2014年に下総地区の小学校4校、中学校1校が統合し、小中一貫教育校として開校
- 1年生（小学校1年生）から9年生（中学校3年生）までが毎日の縦割り班での清掃活動や、小中一斉に行う体育祭など、学内の様々な活動を通して交流する

- 学校規模（令和4年度）
 - 小学校：1学年2学級
計259人
 - 中学校：1学年2～4学級
計149人



義務教育学校② 成田市立下総みどり学園（千葉県成田市）

1年生から9年生までの縦割班で全校遠足



生徒会長のあいさつ



全校で並んで歩きます



全校でジャンケン列車

清掃活動も縦割で行われ、上級生が下級生に掃除道具の使い方や手順を指導



リーダーのあいさつで掃除開始



ちりどりの使い方



下駄箱の掃除の仕方



ぞうきんの使い方

義務教育学校③ 太田市立北の杜学園（群馬県太田市）

- 北中学校、太田東小学校、蕨川西小学校の3校が統合し、群馬県内初の義務教育学校として2021年4月に開校
- 1年生（小学校1年生）から9年生（中学校3年生）までが同じ校内で生活し、縦割り活動や異年齢交流を意図・計画的に実施
- 5年生から教科担任制を取り入れるなど、「中一ギャップ」の解消にも努めている

■ 学校規模（令和3年度）

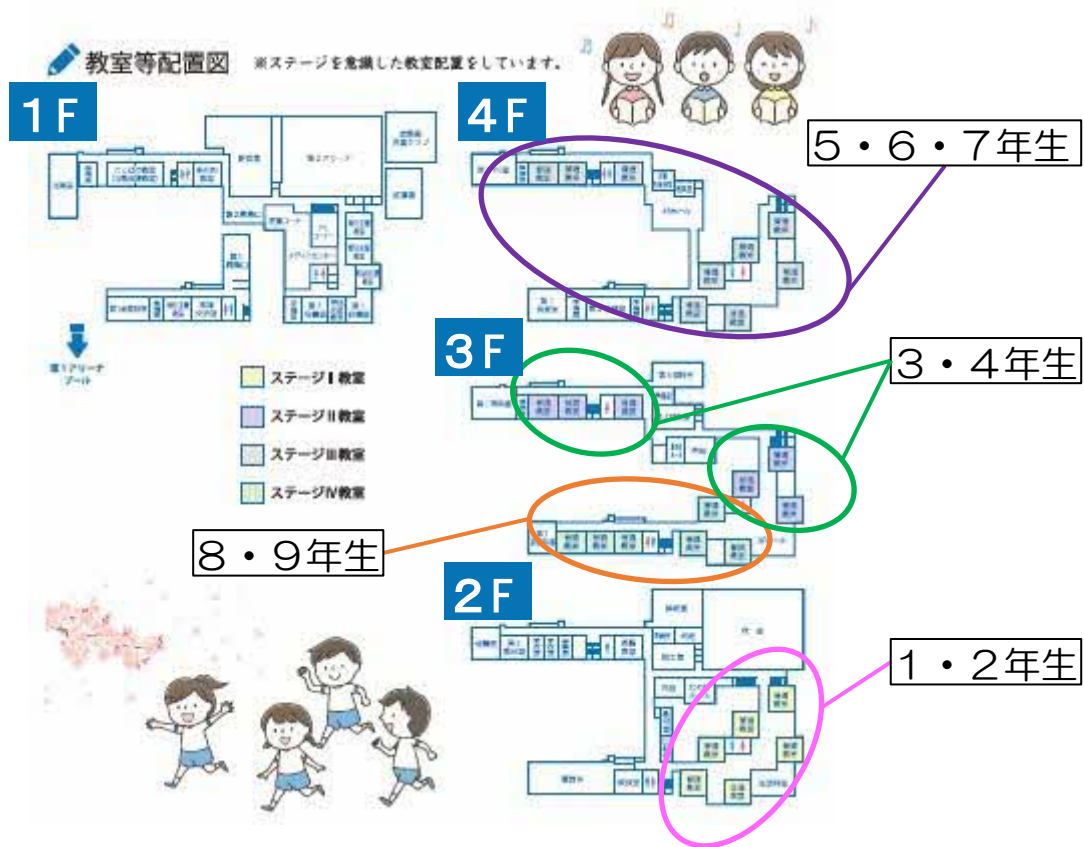
小学校：1学年3学級
計524人

中学校：1学年3学級
計258人



義務教育学校③ 太田市立北の杜学園（群馬県太田市）

学年制を「4・3・2」の3段階に区切る通常の義務教育学校とは異なり、「2・2・3・2」の4段階を採用



異なる学年同士で遠足



「新1年生を迎える会」は7年生が中心となって進行役を務めた



併設型小・中学校（施設一体型）① 世田谷区立芦花小学校・中学校 （東京都世田谷区）

- 小中併設校であり、同じ敷地内に小学校と中学校が配置されている
- 校舎の改築に合わせて保育所が移転したが、防犯の観点から入口は小中学校とは別になっている



- 学校規模（令和3年度）
小学校：1学年5～6学級
計1,082人
中学校：1学年3学級
計321人

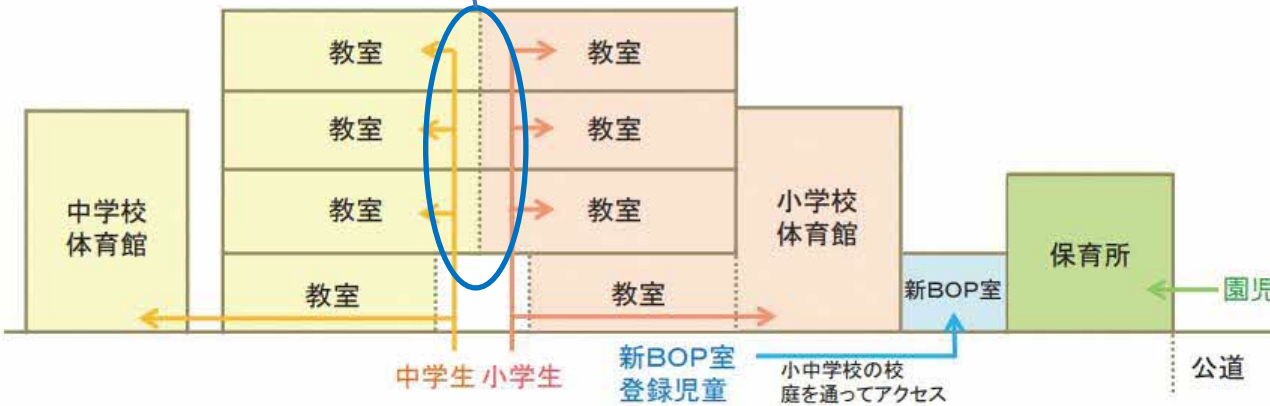
併設型小・中学校（施設一体型）① 世田谷区立芦花小学校・中学校 （東京都世田谷区）

小学校と中学校はそれぞれ昇降口と諸室を持っているが、小中の間には明確な仕切りがなく、廊下も繋がっている

体育館は小中別々だが、部活動では小中学校両方の体育館が使用可能

保育園も運動会の予行演習などで体育館を利用





<立面図>



<配置図>



凡例

	→ 小学校		→ 中学校		→ 保育所
	→ 新BOP室				

グラウンドは小中共用だが、一度に4学級程度の授業が可能な広さを確保

保育所では中学生の職場体験や、小学生による絵本の読み聞かせが行われている

併設型小・中学校（施設一体型）② 川崎市立はるひ野小学校・中学校 （神奈川県川崎市）

- 川崎市初の小中連携校として2008年4月に開校
- 住宅開発によって人口が急増した地域で、川崎市立栗木台小学校・川崎市立白鳥中学校の学区から分離独立した

- 学校規模（令和3年度）
小学校：1学年4～5学級
計975人
中学校：1学年4学級
計419人

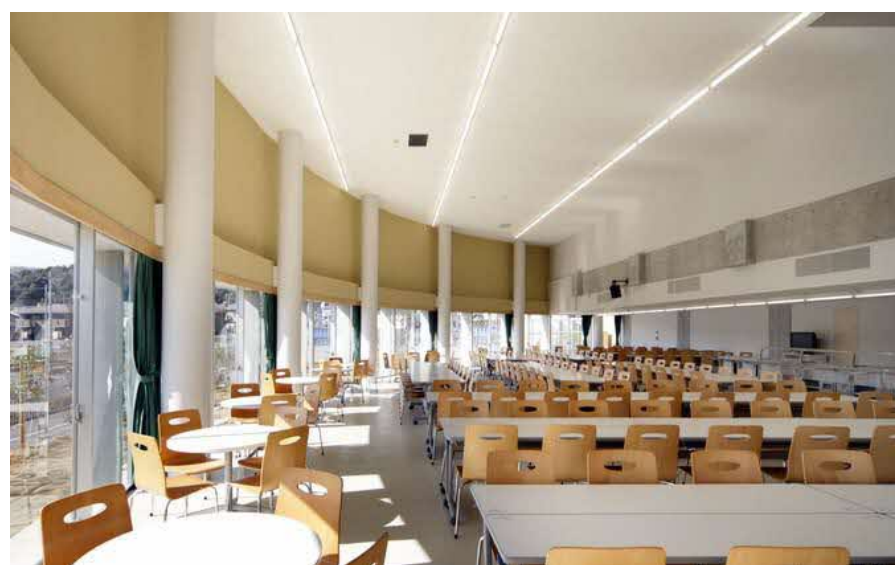


併設型小・中学校（施設一体型）② 川崎市立はるひ野小学校・中学校 （神奈川県川崎市）

「口」の字型の中庭で小・中学生が交流



オープンスペース型の教室などを設置し
多様な学習形態に対応



分校 事例紹介

【分校の制度概要】

- 分校とは、地理的事情などから本校から分離して設けられる学校
- 学校教育法施行規則第42条、第79条で、小学校は5学級以下、中学校は2学級以下と定められている
- 複式学級となる場合に選択可能
- 校長、教頭、養護教諭、事務職は本校と兼務、分校の学級数の教員が配置される

分校① 篠栗町立篠栗小学校 萩尾分校（福岡県篠栗町）

- 児童は2学年ずつに分かれた複式学級で授業を受ける
- 教科書は学年に応じたものを使用するが、基本的には合同授業であるため、生活科や社会科、理科、音楽、図工、外国語、家庭科、道徳等については、異なる学年の教科書を使って学習することもある
- 体育や音楽、クラブ活動等は必要に応じて全校一斉に授業を実施することが多い



- 学校規模 / 3学級7名（令和3年度）
- 校舎面積（410㎡）
集会所面積（565㎡）

しんぐう あいのしま
分校② 新宮町立新宮中学校 相島分校（福岡県新宮町）

- 島ガイドや遠泳大会といった地域の特色を活かした学習が行われている
- 1年間の「漁村留学制度」を設けており、海に囲まれた自然環境とのふれあいや少人数の学習指導や地域の交流など、体験重視の教育活動が展開されている

■ 学校規模 / 3学級7名（令和3年度）



一部事務組合 事例紹介

【一部事務組合の制度概要】

- 組合立小学校：地方自治法に定める一部事務組合（※）が設置する学校をいう
※複数の普通地方公共団体や特別区が、行政サービスの一部を共同で行うことを目的として設置する特別地方公共団体。
(地方自治法第284条等)

一部事務組合① 布施学校組合立 布施小学校 (千葉県いすみ市・御宿町)

- 学区がいすみ市と御宿町にまたがる千葉県唯一の組合立学校。
- 昭和30年の町村合併前の旧布施村がそのまま学区となっている。
- いすみ市と御宿町の町議会議員代表者による布施学校組合議会があり、独自に設置した布施学校組合教育委員会が経営主体となっている。
- 学校関係の予算もいすみ市と御宿町で負担をしている。
- 令和4年度現在、児童数は29人、教員数は13人（校長、教頭、教諭、養護教諭、事務、非常勤講師、支援員、用務員）。
- 縦割り班活動など、特色ある教育が行われている。



児童数内訳（令和4年度）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
男子	1	3	0	5	4	7
女子	1	1	0	3	2	2
計	2	4	0	8	6	9



【縦割り班活動】

- 6年生がリーダーとなり、掃除や休み時間の活動、1年生を迎える全校遠足などに取り組む。
- 上級生や下級生に掃除の仕方を教えたり、遠足の班活動で面倒をみたりしながら人間関係づくりをする。



一部事務組合② 辰野町塩尻市小学校組合立 両小野小学校 (長野県辰野町・塩尻市)

- 昭和28年、小野村（現辰野町）と筑摩地村（現塩尻市）の郡境を越える組合立小学校として創立された。
- 両小野中学校や二つの保育園とともに、保小中一貫コミュニティ・スクール「両小野学園」として、地域とともにある学校づくりを行っている。
- 令和4年度現在、児童数は112人、教員数は26人。
- 生活・総合の授業を、地域の良さや自分の良さ・可能性を発見する学習「たのめの時間」と位置づけ、古くは清少納言の『枕草子』で「たのめの里」と呼ばれたこの地域の自然・歴史・文化・産業などを学び、地域の伝統を次の世代につなげていくための特色ある教育が行われている。



～ ボランティアや保護者とともに地域の中で学ぶ教育 ～



✓畑でサツマイモや大豆を栽培



✓お米作り。収穫後は学校で販売



✓プログラミング学習でドローンを計画通りに飛行させる実験



✓地域で一緒に育てた大豆を使って「きなこ」作り



✓宿場町の面影を残す「小野宿」の見学

一部事務組合③ 播磨高原広域事務組合立 播磨高原東中学校 (兵庫県たつの市・上郡町・佐用町)

- 学区はたつの市・上郡町・佐用町の3市町にまたがる。
- 同組合が運営する「播磨高原東小学校」と近接している。
- 令和4年度現在、生徒数は43人、教員数は15人（校長、教頭、主観教諭・教諭、看護教諭、事務職員、常勤講師、用務員）。
- 兵庫県が先端科学技術基盤を活かしたものづくり産業の集積を推進している「播磨科学公園都市」の一端を担っており、周辺には教育・研究施設や行政機関、医療機関、その他企業などの諸施設が立地している。
- 総合的な学習で研究論文に挑戦して探求力・表現力の向上を図るなど、学術都市の条件を活用した特色ある教育が行われている。
- 経営主体は、播磨高原広域事務組合。「西播磨テクノポリス建設推進3町協議会」等の複数の自治会にまたがる4組織を統合し、今に至る。事務内容は、当校と播磨高原東小学校の2校の維持管理・教育事務の他、新都市建設の推進業務（PR業務）、水道事業なども含まれる。



科学の楽しさを味わう
「サイエンスウィーク」



キャリア教育を目指した
1年生の「ものづくり研修」



✓学校周辺は「播磨科学公園都市」として
教育・研究・医療機関が多く立地

